令和３年度　学校経営方針

１　はじめに　～学校経営方針の策定に当たり大切にしたいこと～

⑴ 子どもたちが生きるこれからの社会と新学習指導要領

21 世紀は、新しい知識・情報・技術が社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す、いわゆる「知識基盤社会」の時代であると言われている。さらに、グローバル化や少子高齢化、急激な情報化、技術革新などにより、社会が加速度的に変化をし、将来の予測が困難な時代を迎えている。

中学校で令和３年度から完全実施される新学習指導要領では、このような社会の中で求められる力の育成を、各学校の教育課程や各教科等の授業まで浸透させ具体化していくことが、これまで以上に強く求められている。「社会に開かれた教育課程」の視点に立ち、社会の変化に向き合い適切に対応していくため、学校教育を通じて育むべき資質・能力を教育課程全体の中でより明確に示し、それを社会と共有し、連携、協働しながらそれらを子どもたちが確実に身に付けることができるよう、日々の教育活動を展開していきたい。併せて、働き方改革の視点から、教職員の健康保持とやりがい、さらには教育の質をより高めることのできる環境を構築していきたい。

⑵ 本校の学区の状況と生徒の実態、保護者、地域の願い

本校は、校区に市役所やＪＲ磐田駅があるなど、磐田市の行政や商業・経済の中心地区であり、３つの県立高校があるなど文教地区でもあることから、保護者や地域の方は、校区「中泉地区」に誇りをもち、教育熱心で学校教育に対する期待も高い。

本校生徒はまじめで優しさをもち、規範意識が高く、授業や行事をはじめ、教育活動に前向きに落ち着いて取り組んでいる。また、一中生としての自覚と一中のよき伝統を継承しようとする姿が多く見られる。

一方、内面的な課題をもつ生徒も少なくなく、不登校等として表面化している。特別に支援を要する生徒や外国人生徒も増加してきており、一人一人の特性に応じた指導が必要になってきている。また、与えられたこと、指示されたことは誠実に一生懸命取り組むことができるものの、自ら考え、判断し行動したり、自分の思いや考えを表現したりすることに課題が見られる。

生　　徒		保護者	地　域
強　み	課　題		
・与えられたこと、指示されたことは素直に一生懸命取り組むことができる。 ・他人を思いやる優しさがある。 ・規範意識が高く、学習、行事、部活動等に熱心に取り組むことができる。 ・一中生としての自覚がある。	・困難にめげずに立ち向かう気力の涵養 ・自己肯定感の醸成 ・自分の思いや考えを自己表現する力の育成 ・自分で考え、判断し行動する態度や能力の育成 ・欠席率の改善。 ・自分を知るとともに、他者を受け入れる態度の涵養	・精神的な安定を支える良好な家庭環境 ・協力的な保護者,PTA ・進路に対する期待 ・複雑な家庭環境にある生徒の増加	・文教地区に立地（学区内に３校の公立高校） ・一中、中泉地区への誇り ・一中生としての誇りを持たせて欲しいという願い

⑶ 校訓と生徒信条

建学の精神として、脈々と受け継がれてきた校訓「平和を誇れ　真理を啓け　文化を創れ」は、本校教育の歴史を貫く最高理念として位置づけられ、創立以来、具体的な教育活動の実践により連綿と受け継がれてきた。また、３つの生徒信条「 私は知識をみがくために自主的に学習する生徒になります」「私は花の美しさも人情の美しさもわかる生徒になります」「 私はたくましいからだと旺盛な精神力をもつ生徒になります」も時を超えて変わらぬ人としてのあり方を示す不易の理念が含まれて

いる。
　これからもこの校訓、生徒信条の精神、伝統を受け継ぎ、本校のさらなる発展を図り、本校の使命を果たしていきたい。

校訓	平和を誇れ	真理を啓け	文化を創れ
校訓の解釈	「平和を誇れ」とは、国際平和を願い協調関係や人権を尊重することである。「自他の存在をかけがえのないものとして認めること」「自他のかけがえのない命を大切にすること」に他ならない。	「真理を啓け」とは、「真理を解き明かすこと」であり、学問を追究することである。基礎的・基本的な力をつけながら、「物事の本質や正しいことを求めてねばり強く学ぶこと」に他ならない。	「文化を創れ」とは、一中74年の歴史と伝統を正しく踏まえ、新たな一中の文化を創出することである。 一中らしいたたずまいを築き「一中生であることに誇りをもち、役割を果たし、貢献すること」に他ならない。
主概念	惻隠	矜持	堂々
	「人間らしさ」の希求	「自分らしさ」の創造	「一中らしさ」の創出
生徒信条	・私は知識をみがくために自主的に学習する生徒になります。 ・私は花の美しさも人情の美しさもわかる生徒になります。 ・私はたくましいからだと旺盛な精神力をもつ生徒になります。		

(4) 本校が大切にしてきたこと
　本校が今まで大切にしてきたこととして、「生徒につく」「生徒に寄り添う」「学級づくり」「清掃は師弟同行」「保護者との連携」「ＰＴＡあいさつ運動」「組織の維持はコミュニケーション」「教師みんな仲良く」「学級学年間の閉鎖性を破る」等がある。これらについては、一中学校文化として継続していきたい。

(5) 小中一貫教育“なかいずみ学府”とコミュニティ・スクール
　小中一貫教育は、平成24年度に“なかいずみ学府”が市内で最初の実施学府としてスタートし、３小中学校が位置的に近いという立地条件を生かし、生徒、教職員のつながりの深化を目指した取組を続け、９年目を迎える。この間、学校風土改善に向けた「Ｎスタイル」「ありがとう」「深呼吸」の取組や児童生徒の交流、教職員の乗り入れ授業等の実践を重ねてきた。今後も、これらの取組をさらに推進すると共に、中学校卒業時の姿を踏まえた９年間のカリキュラムづくりに取り組んでいきたい。
　また、コミュニティ・スクールは平成26年度から、それ以前の学校協議会を基盤とした学校運営協議会を設置してスタートし、地域と連携した取組を展開している。今後、社会に開かれた教育課程を具現していくためには、学校運営協議会での熟議と学校支援ボランティア等による学校教育への参画は欠かせない。今後も、地域と共にある学校づくりを積極的に推進していきたい。

　令和３年度は、(1)から(5)を踏まえ、以下のように学校運営を推進する。特に、社会に開かれた教育課程の視点に立ち、本校で育成する資質・能力を明確にし、保護者、地域と共有し、全ての教育活動でその資質、能力の育成を意図した教育活動を展開していきたい。

２　学校教育目標　　「志をもち　しなやかに　たくましく生き抜く生徒の育成」

３　育成する資質能力（めざす生徒像）
・自ら考え、判断し行動する力【自律】
・多様な考えを尊重し合い、協力して課題を解決する力【共生】
・目標に向かって、粘り強く挑戦し続ける力【自立】

4　学校経営目標

“ことば”と“そうい(「相違」「総意」「創意」)”を大切にする学校

⑴ 一人一人の特性に応じたインクルーシブ教育の充実と組織的な教育支援の展開
⑵ 学びを深める対話「Nスタイル」活用による主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善
⑶ コミュニティ・スクールを基盤としたなかいずみ学府小中一貫教育の推進
⑷ 保護者、地域への情報発信と、地域の教育力を生かした教育活動の推進
⑸ 教職員の働き方改革の推進

5　基本方針

⑴ 人間尊重の精神を基盤とし、人権感覚を研ぎ澄まし、一人一人の生徒に寄り添い、生徒指導の３つの機能（自己決定、自己存在感、共感的人間関係）を生かした指導
⑵ 多様な個性の尊重と受容、安心感、信頼感を高める教育環境づくり、学級づくりの推進
⑶ インクルーシブ教育の視点を踏まえた、一人一人の特性に応じた教育の推進
　東館や保健室でのサポート、外国人生徒への支援、特別支援学級生徒の交流教育への組織的な対応
⑷ 学習指導要領具現に向けた授業改善と評価、社会に開かれた教育課程への対応
⑸ 規範と感動、誇りを創り出す生徒主体の自治的活動(生徒会、行事、学級活動等)の充実
⑹ 生活安全、交通安全、災害安全への意識高揚と危機予知、回避力を向上させる安全指導の充実
⑺ なかいずみ学府小中一貫教育における９年間を見通したカリキュラムの立案
⑻ 学校運営協議会を核とした学校、家庭、地域との連携、協働と地域の教育資源（ひと、こと、もの）の活用、情報発信による学校教育の見える化の推進
⑼ 学校運営や部活動における組織的な働き方改革による教職員の心身の健康維持と家族の幸福追求

6　教師の基本姿勢

⑴ “深い子ども理解”にもとづいた指導
　子どもの言動には、必ず理由がある。子ども理解に際しては、「子どもの言動は氷山の一角である」ということを前提にする。目に見えない、聞こえない海面下の氷山の部分に子どもの言動の誘因、動機及び無意識の心理過程がある。子どもの言動の理由に思いを馳せ、指導に当たる。
⑵ 子どもの“育つ力”を信じ、じっくりと待って育てる
　子どもはよりよい自分をつくっていく力を持っている。潜在的に資質・能力を有している。指示は極力控え、失敗しても、自ら考え判断し行動できるようにする意図的な働きかけをしたい。子どもの試行錯誤を大切にし、失敗や誤答から学ぶチャンスを大切にしたい。「ねばならぬ思考」の危険性に留意。
⑶ 安心安全な教育環境
　子どもは、安心安全な環境の中で、自分自身を発揮する。自分の事を理解し、受け入れてくれている、信じてくれているという安心感が子どもの力を引き出す。また、互いの違いを違いとして認め合う集団であることで、のびのびと本来の自分を発揮していく。
⑷ 「自己選択」「自己決定」の場の設定
　子ども自身が自ら選択し決定することや場を増やし、メタ認知できる機会を設定する。また、子どもが力を発揮する、子どもに任せる場と時間を意図的に設定する。
⑸ 後ろ姿で導く教師　「模範」「感化」「信・敬・慕」　”ことば”の重み
　本校が大切にしてきた「生徒につく」「生徒に寄り添う」「清掃は師弟同行」を継続するとともに、子どもを大人と対等な一人の人間としてリスペクトした言動に心がけたい。

7　勤務環境改善

⑴ ミライム、タイムカードにより勤務時間を把握する。部活動は、部活動ガイドラインを遵守する。
⑵ 各分掌業務や教育活動において、常に目標に立ち返り、目標を達成するためにはどんな取組が必要かという視点から見直し、改善を図る。
⑶ 時間の使い方を意識することで、段取り力を高め、教職員の意識改革を図る。
⑷ 地域、保護者との協働を一層進める。